

新夷巡遊記

吉田屋

初編

貳

春

庫書	105
5	56
158	169
40	號番
	數冊

~ 13
3093
2



朝夷巡嶋記全傳卷之二

東都 曲亭上人編輯

初輯第三

遠山寺乃見樓  
山脚村の教草

吉田屋



却説腰越六ヶ野兵ホとぬる瀧倉ふり来り阿三九の爲体とへく  
かの條の奇異怪談首より尾まで主の義盛は告ぐ美盛は告ぐ教馬嘆し  
このちりて朝繪が魂魄稚兒は寅縁と汝ホと逐ひせしめあえん寔は朝繪の  
美めまゝ恥をきる勇婦とこのちりての勸よその子のを病とてんよぬ  
母のまらう成娶くせんとも渠は憤を起させしるが過失は今もみよ  
るうものなごめどその非歎悔く阿三九を名吹さんとまらるる小怪も阻て  
汝ホ追まらせしめりみきう後乳母が故郷の安房とら使もさるるゆてゆ

昭和九年  
七月二三日  
勝求

あさるるる阿三九と捉ふんと難くもあかぬと云ふことども今の由叔己なん  
理き通らぬ崇を受く人と成かともあはじ唐山晋の文公がゆ子推をわへ  
ゆるりゆる例るたあかむ馳せる馬ゆ先づりともあはじあつたこと言の  
まあまあと流ともあはじ塊の衛るとるる阿三九の恙るく成長せん致さふ不  
慈小他く不慈るる親のころの神もあかめ且く棄て再会の時と待んと  
ややくふあひえくく獸六ホとてころの谷と退世かむは蓋て入ぬの告む志のび  
まのひ僧と招て朝後かむは経弑補せ追福化業のころのころ又他是  
あかりけまはははは葉ゆの阿三九小俱くく恙るく松のその日の下哺ふ安  
房の白子小若くく夜とてくく舊里のる大儲の郷はありくくく家らくく  
まくくえ且木まくくくり門の松葛小後せし破色小杖風ゆり虫の声らふ小  
妻へる死宿小促織の如く蟋蟀推よのらと刺せと鳴く良人のけりも馬追致

あつりつるまくくゆ一葉は残は蚊遣のたけり紙窓より漏燈火の螢とくり小  
え西めれども馴し俣の尾折戸推用く進ま入まよや喃ととゆあむを門やとくと  
まら敲かどひげける死るるる音声の方女房え葉ゆのあかむと同  
つ遊て豊六ハ紙帳の内より這かき遠く指燭の戸を引開て迎へは祝ま  
るるる恙る死帰郷祝し祝さるその樂しき歎こりあかむと豊六ハ女  
房がゆままつる推見のりむはゆは夕餉の箸ととせらるるその故法尋  
る小葉ゆの朝後か言金沢野の奇異怪談状おちもあは物うとて  
辛く追捕と脱ままらる癖の趣と告ぐ豊六ハゆらち驚死まらるるこの  
とてこの死んあかむがぬ小主君のまことも為命ゆて天離る鄙の田舎小侍に  
長則母河前の送命といふりゆらとて又その縁は連る過世の心報ふる  
もの次第脱れまら樹るまこと且吉凶と按さる小母公の仰は侍るとの大刀袷の



先例成同とあり。素よりその人となり。貪まればも猶も。賤きことの貪まらば。  
例成引く。非は成否。理を推す不義と諫め。勢ひあつた。利は後と。後成の  
むらりかぶるふまるとる。只一御のゐる心。志成演。その鯉直剛腸。威感。さ  
りのもの。又その才のおせ。成娟。只あの子の。怜悧。只あの子の。嗚呼。とて。  
穢るものと。亦まらる。けり。間結。はさて。おれたつ。次の日。ふる。し。豊六。謙倉。り。  
再て追捕と。おけ。と。阿三九と。索らる。と。あるべし。と。おふ。た。ん。と。ふ。く。く。は  
親護て。彼稚児と。門へ。も。出。さ。ざ。り。有。一。日。又。お。あ。つ。つ。幼。稚。と。も。反。逆。の。餘。數。と。い。ふ  
の。あ。ら。ぶ。一。日。の。り。と。も。舍。藏。る。後。難。脱。る。べ。う。も。あ。ら。ね。ば。と。渠。は。さ。は。勢。の。と。も。  
恩。義。の。り。て。子。と。ひ。つ。と。も。これ。の。り。の。外。に。あ。る。追。捕。の。兵。士。の。ち。て。逼  
ら。ば。時。宜。小。う。ま。く。稚。児。を。逃。と。さ。と。も。又。逃。與。さ。と。も。只。今。と。決。さ。し。一。敷。は  
こ。道。成。隠。さ。る。却。人。は。疑。ま。ん。を。賣。ら。る。と。た。の。あ。ら。ざ。り。と。忽。地。お。ひ。え。せ。し。六。葉

ひゆと。その。あ。ら。び。成。な。さ。せ。く。是。より。又。人。小。隠。さ。と。阿。三。九。の。丸。と。珍。死。く。阿  
三。郎。と。名。け。り。當。の。珠。と。慈。む。夫。婦。が。連。愛。大。く。ス。の。後。都。死。里。人。小。柄。で。つ  
の。程。ぬ。稚。児。と。養。ふ。と。は。と。同。り。の。あ。ら。び。上。総。へ。遣。し。る。女。兒。小。葛。が。兄  
の。り。う。し。彼。と。此。と。の。子。ら。の。り。う。人。は。告。げ。も。面。お。せ。な。さ。ざ。都。死。人。小。隠。し。う。  
この。比。小。葛。の。り。共。又。東。金。の。り。又。遣。せ。し。その。養。家。は。故。あり。く。此。夜。猛。は  
ぬ。さ。と。し。う。と。真。し。か。う。小。説。お。せ。が。その。殊。さ。ら。ふ。め。で。た。ら。ぬ。異。義。と。和。主。が。長。兄  
病。著。切。羽。通。り。劍。刀。身。小。も。お。下。と。お。子。と。も。と。棄。捨。が。如。く。あ。ら。ぬ。人。小。養。せ  
て。も。男。兒。の。謙。倉。小。拾。事。せ。し。母。は。も。と。く。還。は。と。智。恵。才。学。お。く。成。と  
る。ら。ん。や。是。の。和。主。が。正。直。の。成。又。宿。は。神。と。ま。の。授。け。さ。せ。ぬ。か。小。子。を。お。ひ。お。は。又  
今。愛。も。ぬ。り。あ。ら。日。の。あ。ら。ぶ。と。や。ら。老。て。の。後。ハ。世。間。小。子。よ。ら。成。宝。の。り。の。め。と。  
仇。ぬ。る。と。ひ。ひ。ひ。そ。と。あ。る。人。毎。の。り。と。や。く。疑。ひ。の。あ。ら。る。り。け。り。お。て。と。や

その羊も暮る。春も暮る。ふかりふけきど阿三九と久せらる。鎌倉より  
 人もまば白子の浪は波やれとも風の候り色は夕暮の豊六葉のあつち  
 むらむ。子と慈む阿三郎の野嶋む。腰越獣六を叱り儼然也。舟台の  
 大人は。これら母の冥馬。假ふいせりのるる。再々いさる。挙動を  
 せね。その健るる。終るる。老の病小似も四五才に及びて。助骨遅く力  
 づた。同庚なる侘子ゆ。身長一丈。うけり。ぐても豊六葉。以て実の親  
 なりと。おひ。小鹿の角の束の間。暮るるとの。孝心自然。あふれて。  
 親のど。せぬ物。欲とくむ。くると。戌せ。苟且の。越と。田植草刈。に  
 好ま。竹馬と。乗ま。植小。印地打。綱引る。と。日と暮せ。豊六。を  
 まま。寵愛。葉。私。氏。育と俗。実の生枝。花。か  
 あり。人の教。農。子。阿三郎。学。吠。吠。の中。入と

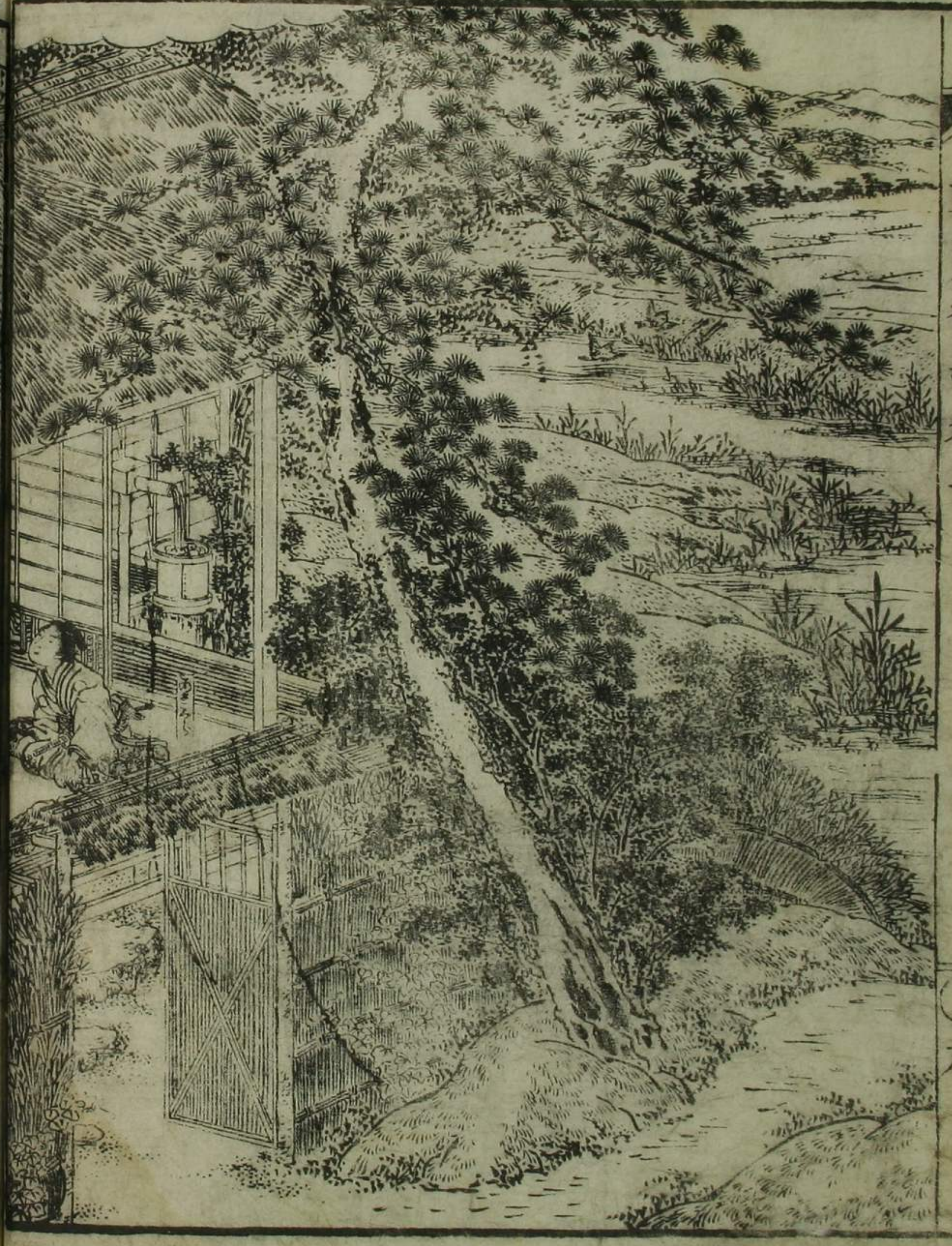
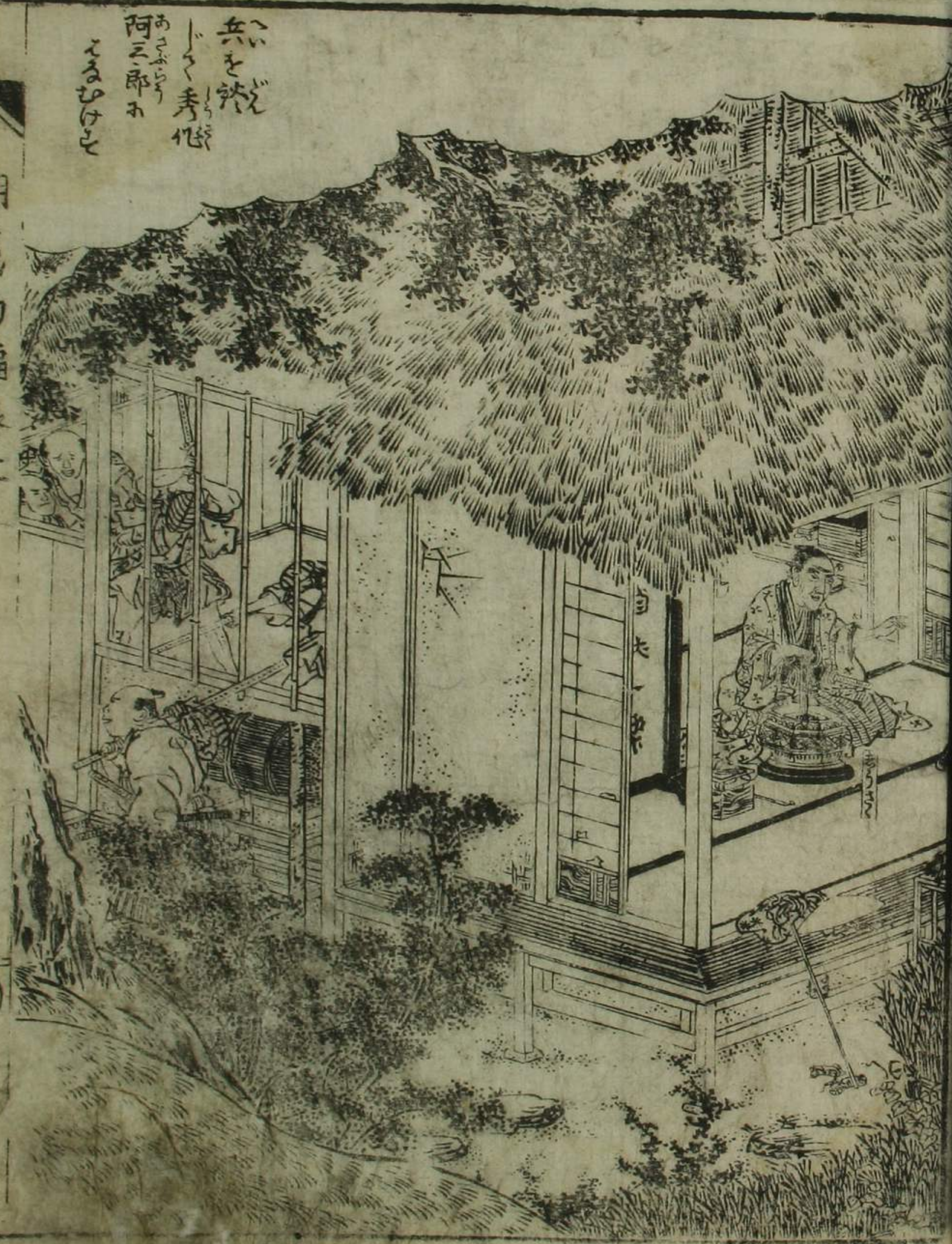
る。いと惜る。べた。と。びや。が。寒。と。夫婦。び乃  
 食と減。二重の衣。単。ゆ。も。渠。学。せんと。あ。早。り。  
 今。より。これらの用意。こ。酒。禁。る。ん。又。さ。の。拵。を  
 せ。や。と。正。首。の。禪。と。ち。と。その。か。り。や。夜。の。目。と。合。せ。ば。  
 織。績。を。ゆ。り。る。る。る。る。る。る。の。畑。の。價。の。外。又。入。る。る。る。る。る。と。  
 愉。く。意。つ。是。より。夫。婦。か。と。戮。く。片。晌。由。お。せ。ば。阿。三。郎。が。八。才。の。春。満。禄。乃  
 山。寺。へ。遣。く。も。お。せ。せ。子。回。させ。親。の。安。否。と。問。ん。と。く。り。里。へ。來。ると。あ。れ。い。  
 豊。六。の。笑。顔。を。見。せ。ば。い。と。叱。り。激。く。追。う。さ。び。と。い。ふ。と。る。る。る。る。阿。三。郎。と  
 朝。も。暮。る。る。も。又。母。恋。と。思。ひ。つ。も。後。竟。お。山。と。り。も。学。の。窓。の。燈。を。掲。げ。て。見。ぬ  
 よ。世。の。人。友。友。と。び。つ。の。と。素。より。その。才。を。一。つ。終。り。年。十。四。五。に。及。び。て。い。儒。仁。の  
 道。よ。こ。け。登。り。と。蕙。蘭。の。園。に。お。び。和。漢。の。書。を。涉。獵。く。古。今。の。治。乱。を。通。り

ころ。あるところその性どく。武藝の嗜む所ありとも武勇疎く。車ありて片  
 輪をまき。實は送恨の事と。この時よとやあわう。人ぬ告げ。あびく。良師の  
 あり。とま。この山の麓村は健田秀作といふ武士の浪人ありけり。栗のいる壽永  
 二年の冬十二月人の終らふよりて鎌倉の管中ゆく移り。上総持女平廣  
 常が家臣なり。主君廣常終死の後二君おはると。願ひ。上総去て安房お  
 赴。麓村に僑居し。領主の家臣郷の壮伎小ぬ兵法武術の師範して。とある。こ  
 ろ。ゆも世に後る。その性老實。小く。猶り飾らざり。又利欲先は。戸を張。と  
 妻も。子も。朝夕の薪水。一僕に任する。の。固より。一年三個月貯  
 禄。死。患。と。せ。信。と。り。子。と。す。く。り。死。の。あ。り。阿三郎。これ  
 了。と。多。頻。慕。り。て。霎。時。ゆ。地。に。踏。中。小。秀。作。が。宿。所。小。赴。名。簿。と  
 投。對。面。と。志。演。秀。作。を。奇。と。し。一。獲。及。ぎ。領。諾。せ。り。こ。し。は

ようて。阿三郎の。只。管。め。志。運。の。又。の。関。越。の。死。て  
 健田が刀法と習ふ日いと稀る。とも自然とゆるる。道。と。僅。小。一。年。あ。り  
 め。この師の舌。巻。を。り。小。忽。地。上。達。ま。り。秀。作。の。く。これ。愛。て  
 軍学の秘決。劍術の奥。秘。も。漏。さ。し。傳。授。せ。り。の。大。踏。阿三  
 郎。母。持。病。の。疫。積。日。あ。り。長。病。著。小。針。と。豊。六。八。寺。小。清。来。て  
 子。小。縁。由。と。告。す。て。の。あ。の。が。ゆ。と。火。と。も。打。水。成。も。汲。片。小。妻。と  
 着。病。ア。二。番。草。も。抜。あ。り。田。の。瘦。細。の。荒。る。の。の。ふ。と。も。せ。ん。と。る。し。バ  
 師の坊。又。ゆ。え。あ。び。く。け。の。汝。が。力。の。暇。成。賜。え。て。来。つ。と。さ。り。と。て。の。持。来  
 の。命。危。ま。と。は。え。う。肉。は。借。し。て。出。る。病。を。速。め。の。愈。成。と。願。ひ  
 師。の。い。ふ。よ。り。死。よ。く。ま。し。て。け。の。う。と。の。聖。と。れ。の。自。然。と。暮。暮。前  
 め。づ。る。ぬ。お。る。と。進。せ。せ。と。の。ひ。ろ。く。其。を

兵を討つ  
阿三郎  
あつらひ  
えみむけと

朝義刀編卷二



朝義刀編卷二



馳去く妻去ぬ阿三郎の母のり。母の果ば留候哉。そがまき苞と引扱。入  
 方丈へ来りし。又が口状と演へ。住持も又これと禁め。病む母をて二臺  
 の葛のこのりもどとどし。くの暇と賜。阿三郎と遠く。礼の上  
 へ。佳里。百返の。これとゆ。一袂に背負つ。住持は手来の教育に  
 謝へ。師兄道人ホ小辞。く。親里へ。還る程。武藝乃師の  
 健田。門外。心。い。て。安。同母の病著。看とん  
 ぬ。俄。親里大辨へ。つ。は。告。秀作中。く。出迎。さ。色。予。死。と。ん  
 公。せ。じ。あ。ん。ま。と。下。も。里。還。り。あり。研。作。孝。養。小。暇。を。て。技。術。藝。古。を  
 ち。の。み。任。せ。び。お。の。つ。う。疎。遠。よ。う。ん。致。さ。う。あ。ら。わ。る。と。て。あ。れ。狂。く  
 少。選。彈。ひ。の。日。は。る。は。卓。と。理。か。も。窓。の。下。お。誘。引。く。對。坐。く。湯。こ  
 勸。め。昔。の。袴。の。棧。推。印。く。形。成。端。く。さ。さ。い。む。う。と。忙。れ。打。と。り。く。

志心小足成さむと。孝子と苦。小他。世。富。さ。り。あ。る。の。の。只。人。と。贈  
 る。小。財。と。用。に。道。あ。り。の。の。辭。成。り。て。ま。と。の。月。の。日。来。う。り。そ。の。骨。相。と  
 現。て。ま。る。ぬ。和。殿。の。老。農。微。賤。の。の。子。小。い。と。惜。き。人。表。え。加。稱。の。年。来。身  
 子。野。あり。と。い。へ。も。上。達。の。速。ら。る。和。殿。の。如。死。の。終。は。僅。一。年。の。ま。り。は。て  
 兵。書。武。術。の。奥。義。と。究。め。其。の。器。そ。の。量。白。地。の。老。少。の。り。く。い。を。れ。た。これ。由  
 及。ぬ。所。あり。志。れ。と。も。是。や。は。傳。授。せ。め。の。只。一。人。小。敵。を。の。の。所。云。士。率。の  
 武。藝。の。一。大。將。の。入。ぬ。要。る。堅。き。武。推。き。後。に。折。死。く。一。陣。小。さ。む  
 の。と。士。率。の。勇。と。の。又。謀。と。帷。幕。ふ。ら。じ。勝。上。試。千。里。兩。決。と。ま。る。武。大  
 將。の。勇。と。の。和。殿。甚。三。勇。力。あり。い。ち。に。用。る。所。る。を。は。その。力。の。却。志。く。さ。る。武  
 破。く。心。地。ぞ。さ。る。ち。う。た。比。か。小。熟。く。勅。は。力。と。用。ひ。ね。と。も。打。振。手。と。り。く

必鳴る。これこそ我々の豫てより。その聲力あるを我志なり。現ゆ力あるもの。用ひざるその才小を智恵あるもの。又如ける。莫邪が劍中磨き。錯て一莖の草中切き。韓信が智中用ひざる。機は臨く。竟小益は。智の奴え。故に智ある人の人を使ひ力ある人の人又使る。和服又づら。カとのまら。必小使る。又只匹夫の勇又誇る。後音小狭之危を指ん。こが贈りの。則とる。大刀を佩は。何の爲ぞ。人我破へ。たぬ。み。あ。原。是。その身を衛らん。爲る。故に傳燈録は。活人劍あり。殺人劍あり。活人劍と好む。人の仁義と。以城郭と。孝悌と。の。甲冑と。礼智の大刀と。腰は。佩忠臣の馬は。跨。不義と。討非礼と。正。民の土炭。我救ふ。を。戦へ。必。捷攻。必取。向。所。竟不敵。又殺人劍を好む。人の榮利。以城郭と。勇悍。以甲冑と。殘忍の大刀と。要。小佩。貪欲の馬。小跨。人我欲と。

草の如く血と沃ぐ。と。雨の如く。怒ると。我。必戦ひ。勝ると。我。掠奪り。刑せられて。休む。夫兵の凶器なり。奇我出し。謀と。殺。詭と。の。敵と。誘ひ。城と。援き。人。と。屠て。の。愉。と。さる。の。あり。ま。孫氏が。兵書と。学。ふ。の。あ。是。と。不仁と。言。と。亦。悲。と。言。や。諸葛亮が。忠信。の。人。誰。あ。る。と。其。韓非子。小。抄。る。我。の。後。世。に。我。瑕。地。と。な。る。我。の。才。其。秀。作。が。如。け。の。の。教。小。兵。書。と。講。ぶ。の。小。大。刀。を。舞。し。子。身。と。取。長。く。口。と。餽。ひ。僅。小。世。我。送。る。の。願。は。治。世。の。軍。学。を。佛。經。医。書。小。相。似。し。る。ま。古。人。の。確。論。を。た。め。で。死。親。を。ま。す。の。の。こ。づ。ら。こ。自。我。講。い。こ。づ。ら。小。こ。自。我。学。ひ。て。こ。自。我。を。治。し。り。と。思。ふ。の。の。も。あ。る。戰場。小。臨。く。又。づ。ら。ま。れ。と。試。さ。る。何。の。の。可。我。を。人。所。云。地。獄。天堂。と。云。る。と。り。る。く。の。づ。ら。俗。談。説。法。の。を。病。者。を。治。せ。ば。と。

みづから学医と稱するが如し。こゝまでして且武徳をばつて武の道もよくある。癡  
とん癡鼓の皮も貯がごとく急症を救ふよりたかく。泰平をたたく。武の道も  
遂に非常公敵言うに口一方は備らざれば利害得失を辨ざるもの。こゝに武道の  
達人といふ前中も既又示はざる。人死破らんとはるもの。おのれ却傷らま  
おのれ破らざるとさるもの。力と術を人武制と方能ありとく。こゝに  
正したるは後しては聲言はるは登りへの。こゝにや高たはあつと也への落  
りやとるとおそと迷ひその足戦へて駐らざれば心後既小駭きこゝらとく。こゝに  
てあり足中が随ゆるるらば。こゝにその高たは熟なるを拙番匠の類の者らと  
百丈の梢小登り。凌雲の棟とまはとも高たは熟く。高き武徳を後谷谷して  
事代作を彼が智の勝はあつと。こゝに器の成たはあつと。こゝにその熟らと  
熟らると又その心の乱ると乱らはあつと。あつと武徳も又こゝに不似たり。未熟

ののれ難小臨敵然んく苟も脱えんとまらね心丹田の下小ぢらあは類は  
意馬を狂く。こゝに足中が随ゆるらばとく。又連入る  
こゝに異難小臨て難とまはと敵然んく苟も脱えんとまらねと。こゝに丹田の  
下小ぢらあは。その意馬を駭せはあつと。脱き易し。若杜の寓言。禪家乃  
悟道その言の異なるも。武術の奥妙もふあり。こゝに齡傾死ぬ和駭の外は  
儲かぬ。和駭年いと少くとも志を殺さざれば。や、尤才小三り。あつと安房  
四郡のいあもさる。天下小敵るらる。惜らる。平族西海の水泡と消え泰衡  
衣河小汚名を流く。四の海は異小属く。人武用る時おあつと。千里を  
走る駿馬も伯樂小遇ざらば老く。畎畝の中は死き。こゝに又天より命たり。  
人世の福は泰平の民とる。これ又あつと。女ある。才器力量ありと。いへし。こゝに  
みづから頼り心傲らる。力を全まる。こゝに光を埋め徳を蘊之親。こゝに

孝と盡し友と交る小信をわじく分と守す。生活は懈らざる。これより後、  
向る。和敷仕年小至ふその勇必才はやくさんとの有ふこと。且て誠  
勉め人との実情をわらわれと。言みる道理は逼りて河三郎と感  
涙の坐小膝はあはれおほえむ。且しく鼻うちめ。うけあがりひひぬ月  
師恩今日の教誨生涯をなすはあはれと。家内の病起る母あり父が  
齡の小動のそちをひくは實小賢察せざる。如く令負うては親  
代は生活小暇のそち。おほ郡はありるが。師の言否と問ふるべし。  
このわゆるなふ。おほと家の報にかたりておのがやみ。なるといふで許  
させぬ。といひあむ。頻々嗟嘆をひく。秀作は。政は。俾ひみく。ま  
備る。目今。ひつ。孝養と生活。暇をたす。あや。枉て。師の要否と問へ  
といふ。教の終る。たの。親の。休ん。る。や。胡越の。く。なる。と。

「何ともおぬか」。只よく勤く時運候。右と揚家。起る。この外ハ  
一毫も。た。た。長也。時と程。く。人の子と苦め。り。家。家。母の  
今。と。む。む。む。果つ。あ。り。と。い。ま。ま。立。立。三  
郎。感謝。小。恭。く。別。生。口。色。と。脊。負。つ。遠。く。出。秀。作。も。その。後。は  
跟。折。戸。口。立。出。眉。上。ふ。ひ。さ。背。の。ん。か。ま。通。小  
目送り。

初輯第四  
濱宿の館の蒲黄  
修善寺乃支湯

建久元年十一月十日  
京都にて奉仕せらる  
兼て侍所別當とけり  
治承四年十一月十日  
左衛門尉の補任  
親族をせし  
昵をひ他門もよは  
當宗



毎二鎌倉殿うち厚く笑ひ、左右とええの。長経ハ動もとまらぬのが才也。先よ  
 むと。予が旨を向と稀之頼朝とて。憚る。眼代と差副とる老輩。我侮りて。是礼  
 ろんと推量せり。又範頼ハ彼と似ど。久しう兵糧取握り。その。あ。ご。り。色。功。よ  
 誇ら。ご。予。敬。ふ。と。あ。の。如。し。憑。り。死。の。あ。ら。び。や。と。只。官。賞。嘆。志。多。し。の。ほ。に  
 宿小蒲殿頼ハ三河の國より任せらる。元暦元年六月。西園静澄の後。文治元。鎌倉小  
 条向。濱の宿。心身をりり。金葉玉枝とりして。や。さ。ま。ご。り。妻。子。肉。墓。乃  
 盤。飽。さ。士。卒。兵。常。の。熱。死。忘。る。範。頼。妻。より。篤。實。小。して。此。の。野。心。あ。ら。う。よ  
 あ。ら。後。ど。忌。諱。の中。小。方。を。實。と。禍。と。避。る。の。思。慮。は。か。く。さ。ご。後。者。降。城。は。る。  
 傾。げ。ま。う。の。も。ヨ。り。け。る。小。今。茲。建。久。四。年。夏。五。月。鎌。倉。の。右。大。將。於。藍。沢。富  
 士野。持。倉。せん。と。駿。河。路。へ。赴。た。る。管。中。の。田。守。と。り。絶。然。と。て。殺。さ。る。  
 一。り。志。あ。ら。ぬ。こ。の。月。廿。八。日。の。夜。曾。我。十。郎。祐。成。の。才。五。郎。時。致。と。も。小。富。士。乃

久の。二りよ。え。ま。い。ま。え。  
 神野の。所。旅。館。へ。推。進。す。と。父。の。仇。を。了。藤。祐。経。殺。害。し。刺。所。寢。所。ち。り。乱。入  
 る。と。野。の。人。殺。害。ひ。る。狼。藉。の。為。体。禰。倉。へ。使。え。る。九。日。の。真。夜。中。に。り。第  
 一。番。の。注。進。を。縛。つ。と。巨。細。る。ら。祐。宿。寢。の。青。侍。ホ。の。頼。末。と。使。あ。へ。只  
 今。敵。の。よ。り。如。く。劇。感。ひ。り。罵。り。駈。け。バ。範。頼。と。目。死。法。ん。と。と。遠。侍。へ。ま。り。出  
 人。人。劇。駈。ぐ。ま。幕。下。の。失。さ。せ。る。の。も。範。頼。あ。ら。う。の。残。る。と。と。や。ハ  
 あり。と。声。を。や。小。制。し。多。も。駈。死。さ。る。癖。な。る。耳。ゆ。を。後。て。け。さ。る。お  
 第。二。番。の。飛。脚。到。来。と。祐。成。の。大。刀。折。て。仁。田。四。郎。忠。常。に。移。し。時。致。と。搦。捕  
 ら。む。と。幕。下。の。恙。ち。り。あ。ら。と。分。明。と。使。え。る。ふ。さ。さ。心。守。に。して。入。會。せ。う。や。く  
 社。り。け。り。後。二。件。の。越。後。謙。倉。殿。聞。召。く。是。より。氣。色。快。く。原。来。絶。頼。の。自。立  
 の。志。あ。ら。ぬ。え。う。や。宿。侍。ホ。を。推。進。入。る。た。う。と。も。於。朝。は。る。の。ゆ。あ。ら。と。し。の。ぬ  
 せ。う。の。傲。言。え。努。由。お。ま。る。と。と。近。臣。ホ。の。宣。ひ。り。六。月。の。七。の。ヨ。小。鎌。倉。







秀衝没後、其子も、その子どもも、小攻をせり。治五年、高館に、煙を  
 と、命を失ひ、又判官殿の頸取、進ませ、侍の春衝、四衝  
 亦、仰致、此、却、大軍、起、幕下、封、せ  
 多、春衝、亦、劇、駿、其、防、れ、た、か、る、年、の、秋、九、月、今、泉、の、柵、を、破、り、色  
 親、属、後、数、と、唱、と、みる、志、を、め、り、君、知、百、昨、今、の、心、え、箇、様、不  
 符、又、覆、他、人、さ、骨、肉、う、と、も、切、あ、る、の、由、各、兵、員、大、さ、ち、あ、る、を  
 幕、下、の、春、山、棟、梁、の、武、臣、う、と、も、是、れ、練、り、を、う、と、も、竊、謀、る  
 よ、ある、欲、その、奸、悪、を、う、と、も、只、幾、遍、も、推、え、て、管、中、へ、使、者、と、ま、り、せ、う、ち  
 數、せ、る、ひ、る、万、ふ、一、と、思、ふ、と、も、聽、せ、る、と、も、あり、あ、ん、の、方、大、事、成、桃、を、く  
 正、る、人、は、任、り、の、物、体、多、う、い、ら、せ、と、諄、々、と、練、り、を、範、頼、文、と、い、ひ  
 う、と、練、果、べ、う、め、ら、ざ、れ、の、當、麻、太、郎、詠、り、と、君、ち、と、く、廣、通、亦、練、乃

練、云、志、と、今、又、疑、る、時、政、の、幕、下、の、腹、心、隨、一、の、執、控、れ、と、と  
 媚、む、の、あ、り、幾、人、に、こ、の、徳、の、さ、と、區、所、廣、通、と、い、は、れ、つ、も、懇、め、と、え  
 や、う、ひ、其、が、大、功、と、な、る、は、始、む、ゆ、え、と、中、賢、慮、と、決、め、る、後、は、悔、く、と、言  
 と、も、その、甲、斐、入、い、と、言、を、放、く、按、さ、し、廣、通、等、と、冷、笑、ひ、當、麻、の、男  
 士、の、稱、と、ゆ、り、弓、劍、武、藝、の、う、と、も、廣、通、と、も、許、さ、る、へ、と、大、事、不  
 隨、て、その、畧、め、ゆ、り、其、某、を、謀、り、和、殿、の、智、計、を、つ、つ、と、い、ひ  
 甘、も、吏、の、眼、或、膽、に、廣、通、が、い、ら、る、は、誠、忠、頼、廣、常、の、功、は、確、と、主、君、の、氣、と  
 忘、れ、く、傍、若、人、の、拳、動、ま、り、この、故、と、殊、々、判、官、殿、の、是、れ、也、と、い、て  
 強、て、幕、下、と、追、伐、の、院、宣、致、り、り、その、逆、心、頭、然、と、縦、百、の、時、政、あり、と、も  
 練、り、を、救、ふ、ゆ、め、と、眞、の、盡、知、め、ゆ、と、置、く、と、い、ひ、一、の、直、り、と、い、ひ、  
 され、け、諸、小、漕、舟、の、梶、原、景、時、ゆ、と、い、て、逆、糧、の、送、帳、は、堪、へ、と、い、ひ、誑、言



白友

三郎

三郎

濱の宿の  
大評儀  
廣通  
當麻と  
鏡破



當麻



大友



せしと入の久時政ぬし何ある。その澄拙分明るを以てその席に立せし  
 と藤突著しと此も騒ぐ景時とた尋常の佞人維うと云はれ  
 砥破へ石あるとも。アまが玉の如し。大奸の人の毒悪るれども。これ賢者の  
 如し。利口の國家紙覆ひの聖人乃をさる。和敷るにが。あま智とめて量知る  
 べり。と云ふ。この武弘怒るは。過言え。籠口廣通るの唇と動さる。  
 その願と破さる。ちて本事と云ふ。と。腰押の力の鞘よ。は。掛と。鳴呼。や  
 る。と。廣通る。扇と取さる。ち。向ふ。此。彼。面。を。朱。成。法。に。緯。して。来。ぬ。死。光。景。ぬ  
 の。と。禁。め。よ。と。主。命。小。橋。太。左。衛。門。治。部。丞。重。能。廣。光。り。る。共。又。同。小。令。  
 推。隔。難。と。違。は。引。と。け。く。辞。ひ。と。く。理。と。推。て。双。方。と。和。寛。一。つ。武。弘。と。廣  
 通。の。比。成。低。く。め。り。る。且。く。範。頼。ハ。彼。人。は。百。と。せ。く。舊。の。如。く。わ。り  
 と。せ。今。汝。連。が。強。さ。る。所。い。づ。も。理。り。る。た。よ。あ。ら。福。と。送。は。我。音。成。遂。と。て

未定の理否と争ふ。其れ不忠なり。擇みる主のめと。わら。ち。穩便の後よ  
 隨。く。その。もの。ゆ。ふ。あり。ぬ。べ。り。か。ま。と。や。う。と。る。時。ろ。れ。バ。人。の。批。評。の。新。護。ま。小。才  
 の。情。成。忘。て。後。後。の。成。悞。ら。ず。軌。持。成。排。る。り。廣。通。の。似。げ。う。と。冷。や。且。武  
 弘。が。強。は。任。し。く。相。州。政。の。技。助。と。求。め。り。擇。成。ら。ま。ら。ぬ。と。び。後。と。べ。り。會。さ  
 上。月。と。あ。ら。ぬ。よ。と。正。首。小。仰。の。後。堂。ぬ。入。り。ぬ。へ。當。麻。の。面。目。力。小。あ。ま。り。て。  
 ち。ら。ぎ。も。共。元。心。と。大。々。廣。通。の。情。成。と。主。の。背。教。目。送。と。ハ。橋。太。左。衛。門。治  
 部。丞。の。いと。わ。の。ま。げ。ぬ。面。と。あ。ら。く。い。さ。退。散。と。目。礼。の。折。目。高。る。長。袴  
 小。音。と。や。く。と。踏。ゆ。じ。會。り。る。共。は。退。出。け。る。ま。ら。ず。一。つ。當。麻。大。郎。の。情。成。又  
 ち。ら。り。物。成。齋。し。く。時。政。が。聲。臣。なる。湯。嶋。木。工。進。が。宿。所。又。赴。死。件。の。成。成。成。成。成。  
 主。君。の。愁。嘆。堂。中。の。沙。汰。と。し。成。告。彼。成。同。く。公。管。救。と。こ。求。ま。る。木。工。進。の。肩  
 うち。舞。身。蒲。殿。の。ち。ん。の。か。が。主。人。の。日。来。と。り。西。月。く。じ。く。と。入。と。も。幕。下。ハ。此

けたまふ  
 氣を凄じい。さぶとりは。ハス。あやうは。とぞ。あつあきと。和殿の誠忠。忠告。と  
 主。雨。暇の折を伺ひ。あ。く。く。え。ひ。ん。西。三日を隔。く。来。多。へ。と。懇。小。諾。ひ。う。か  
 當。麻。の。斜。る。く。は。教。び。く。る。は。救。ひ。求。る。と。数。回。更。圍。く。宿。所。は。還。り。未。明。ふ  
 加。羅。丸。と。名。け。る。七。首。の。刀。を。賜。ふ。と。ま。は。是。頭。の。殿。朝。の。秘。花。の。物。幕。下。も。く  
 知。百。ひ。く。が。家。の。重。宝。の。と。ど。も。汝。が。才。子。を。賞。ま。さ。る。の。あ。ま。り。さ。の。隨。は。く。ま。さ。る。じ  
 事。成。厄。を。釋。し。至。ら。う。因。賞。買。の。を。ま。さ。る。せ。ん。よ。く。せ。よ。し。と。宣。へ。ハ。當。麻。太。郎。々  
 七。首。と。左。右。の。く。ひ。は。受。と。り。く。三。遍。拜。舞。く。腰。は。佩。君。が。為。め。の。家。と。を。秘。藏。て  
 う。そ。ま。つ。る。命。と。あ。ひ。ひ。の。死。か。ど。う。の。の。賞。せ。ら。る。と。御。相。傳。の。宝。刀。を  
 あり。君。恩。ハ。と。あ。う。ま。う。は。く。は。及。び。き。つ。で。幕。下。の。お。ん。旨。と。空。竊。ひ。ま。せ。を。ら。ん。  
 さ。く。ひ。の。再。て。え。ま。う。入。り。い。は。し。と。や。う。一。果。を。か。ん。ま。は。退。出。し。僅。小。一。日。を

へ。又。湯。崎。が。宿。所。は。赴。死。對。面。と。こ。ろ。木。二。進。ま。う。ゆ。り。雨。室。又。招。れ。ひ。き  
 寒。暄。或。述。安。否。と。同。日。く。声。と。低。め。禪。を。く。る。彼。一。戦。ま。の。く。た。折。或。ゆ。く。主  
 人。は。密。語。ひ。ひ。た。し。の。あ。は。當。麻。ハ。小。勝。我。進。め。そ。の。の。ち。の。り。ま。ま。し。と。同。額。と  
 突。合。せ。蒲。殿。の。悲。歎。和。殿。の。孤。忠。時。政。ゆ。く。感。賞。し。ゆ。く。あ。ひ。あ。か。と。な。く。通  
 心。す。ま。は。へ。う。も。あ。ら。む。と。さ。う。と。く。數。世。め。の。の。こ。ふ。く。後。者。の。吉。と。尋。か。く。は。燈。据  
 る。く。詮。か。る。死。而。移。え。素。より。幕。下。賢。慮。の。底。ハ。時。政。ゆ。も。志。く。せ。め。め。さ。く。こ。れ。ら  
 此。度。の。の。の。こ。ろ。の。判。官。殿。の。死。時。也。連。枝。の。う。へ。の。お。ん。旨。の。御。合。る。こと  
 あり。死。志。う。ゆ。又。故。る。向。存。が。志。う。ま。う。時。政。さ。入。疑。せ。め。め。の。一。所。冷  
 後。者。ハ。維。え。幕。下。の。賢。慮。の。箇。様。と。と。考。ら。ん。と。お。ん。旨。の。別。は。清。原。景。時。の。下  
 る。と。小。潛。び。く。使。え。便。く。我。ゆ。る。ん。と。ハ。コ。の。い。ま。死。る。ゆ。小。あ。く。明。地。小。當  
 麻。生。口。と。正。首。小。の。れ。り。然。る。に。中。和。殿。と。こ。れ。ハ。原。長。竹。馬。の。友。た。め。の。小

あざりのるり漏せしとて主の爲方の爲に仇とならざることをあはし。あふす志を  
 まさしめし。この餘のりちうらなびぶらうう等息を人といふ。當麻太郎は今  
 こころ靴を脱ぎ履きと擡ぐ。まもりのままで強く同じ及僅けのりたる。いふ  
 物より。所空事致果。まき湯桶。そのる。隨白地。君小。廣通。水天。  
 かん加。以伽羅丸。の宝。つぎ。賜。し。事成。ら。つ。見え。入。り。い  
 づ。し。よう。せ。り。の。或。後。たる。便宜。致。し。る。の。ま。い。す。その。甲。斐。る。り。面。者。あ。え  
 ぞ。て。の。ゆ。て。も。難。え。る。り。虎。の。穴。入。り。す。ま。び。て。虎。宝。を。獲。け。じ。世。の。怨。を  
 所以。ある。る。い。づ。空。様。と。あ。ん。あ。時。政。ぬ。の。意。の。と。て。宮。中。は。紛。れ。り。て  
 大。床。の。下。な。り。小。躲。き。て。笑。く。ふ。あ。い。と。あ。は。し。とい。と。残。る。ふ。思。ひ。決。め。り。病。又  
 假。托。出。仕。せ。ま。せ。む。と。て。ち。出。て。宮。門。の。背。面。を。徘徊。し。と。こ。隙。を。窺。ふ。程。小。比。比

八月十日の夜風雨。又。紛。れ。り。謙。倉。の。宮。中。小。潜。び。入り。寢。殿。の。床。の。下。小。躬。を。屈。し。  
 耳。を。側。へ。窺。へ。夜。誥。の。ま。ま。い。げ。ら。り。け。り。この。夜。直。寢。の。近。臣。北。條。時。  
 政。か。子。江。間。小。四。郎。義。時。結。城。七。郎。朝。光。海。野。太。郎。幸。氏。等。頼。朝。卿。の。こ  
 弱。冠。木。又。雙。陸。を。打。つ。齋。興。又。入。り。更。蘭。さ。と。も。お。め。ら。る。ど。あ。り。運。程。  
 當。麻。太。郎。の。あ。の。あ。と。れ。ど。ま。の。の。り。些。風。邪。又。犯。さ。せ。る。小。甲。夜。より。床  
 の。下。小。伏。し。更。に。濕。氣。と。受。し。咳。を。お。と。し。止。ま。せ。袖。の。り。口。を。掩。つ。り。内  
 より。頻。り。お。せ。た。上。す。あ。の。あ。は。ほ。と。咳。け。が。義。時。も。あ。く。あ。つ。つ。い。と。怪。し。や  
 下。小。癖。者。あり。とい。ふ。又。主。後。より。駭。れ。頼。朝。卿。の。潜。せ。り。小。義。時。は。い。ふ。あ。の  
 間。へ。脚。を。残。さ。え。さ。せ。せ。り。朝。光。幸。氏。の。あ。り。又。あ。つ。つ。り。席。蓆。へ。又。伏。せ  
 床。と。放。せ。る。果。し。下。に。伏。せ。る。の。あり。さ。う。な。り。小。燭。の。光。を。逃。れ。こ。ま。る。を  
 朝。光。の。癖。者。等。と。い。ひ。び。り。け。り。跳。ぐ。る。と。小。組。む。さ。の。ま。當。麻。太。郎。が。上。る

實に挑争の祖伏るる易くはけきと顕せしむる小おそき志ひて揮ふるも  
逃んとす進退さゆく途次矢ひく桶の撃と刃と阿撥が幸氏亦より申りて  
朝元又カと戮し幸氏被んとする程又長時ハ遠く走りぬる信と  
てく長刀と取のづこ當麻太郎が左の腋とむらむらと辟けけ忍地さりと  
漬る鮮血とも小武弘ハ懐刀と抜出して長刀の柄と切わたり嗚呼かぞひ  
浅く湯島小賣らむと。といつても果は朝光ハ刃と取りんどの不  
あつて右の腕と搦揚ぎあるりとや若ハ先軀く左へ合ひえと吃掻きり  
死でけし癖者自殺志とけし朝光幸氏怒りば正るう小四郎どの吾們  
既より申り申り申り被んとせしめハ熱ハ痲と負ハハ命張ハ蔓を  
失ひぬと敦圍ハ冷笑ハ嗚呼するるといふる和殿ホ力足じてか  
大事の癖者ととり逃さんとととけりかこれハ浅痲と負せしふる阿撥

獲さしとく。長時があるところといふ朝光幸氏の憎しと多くと先輩  
政子時政ホ又憚り多く再びとと争ひと口喧と吐死て軀て死骸と引  
出せハ頼朝卿由間ちく。立ちがら商するハ怪むしこの癖者ハ主後豫く  
認る。范於の老堂あつる當麻太郎武弘より。その帯より一七首ハ  
又左曲ハ既儀の像見とく。范於手来秘差の名刀。燒刃のゆきひきと  
と且ハ伽羅丸と名けらむ。又この當麻ハカサあり。弓前器械間狭  
の柄固より未熟ののるる今との刃と身ハ帯く。お房の下ハ躲ひ  
る。裕とひ恰とひ。心ハ頼頼が予を刺せんとして潜る。緯回せ  
顕る。嗚呼危きと。危りりと只管ハ嗟嘆し。疾視ハ眼中ハ  
乞きハ頭ハ且くも。あむらむらも騷きあつる長時ホ三人の近臣と  
多ハ緯と遠侍とあむらむら。内外齊一騷きと。あむらむら  
月見切編卷二  
七一

當麻 太郎 漫子 時政 奸計 陥



月夜切通巻一



草子切通巻一

燭と秉の闇を照しく。書院庭園築垣の蔭隈を。あされは雨雲の  
 雲宵ゆきふ小秋の夜の長死ゆきとて。明しける。あきまじきもの。秋は  
 さくさくと仰し。直寝せし。のろろとて。あきまじきもの。秋は  
 ころけん時政を。祀候し。を異と祝し。をいふ。頼朝卿。尚。近習れ。のを  
 遠離す。時政と招れ。よせ。密於時政。秘し。のひぬ。さる。秘は。頼朝臣。の憑  
 まる。當麻太郎。の病著。のよし。とやうし。密議。のき。足ら。る。ぞ。いふ  
 つら。と。一日。二日。と暮。し。ぬ。不。忽。地。管中。より。時政。廣元。を連署  
 到来。火急。を召せ。ぬ。危。頼。の。老。當麻。召取。く。如此。この  
 事。ゆる。吉。凶。定。る。る。後。も。武。弘。既。湯。嶋。の。秘。出。ろ。く。相  
 別。政。殊。は。幕。下。又。執。る。も。勘。忍。免。あ。ん。と。俄。頃。よ。召。せ  
 ぬ。あ。の。人。皆。執。び。久。と。他。る。も。わ。く。宣。へ。老。臣。ホ。眉。と。駈。車。め。辞。ひと

あくま。君。境。の。當麻。太郎。武。弘。の。勇。あ。ど。も。智。謀。は。天。事。の  
 密。議。を。奉。り。病。と。稱。し。龍。居。る。その。成。る。る。あ。ん。と。今。聖  
 皇。と。ま。ま。の。其。危。し。ま。づ。武。弘。と。召。せ。ぬ。ひ。と。その。消。息。を。同。人。否。を。れ。ま。も  
 ゆ。り。當。麻。家。の。危。第。す。ふ。あり。と。も。の。枉。屈。の。神。の。崇。め。今。さ。り。小。櫻。の。死  
 み。ち。な。れ。の。を。懸。ふ。あ。ん。と。盆。中。の。魚。と。た。り。入。り。只。この。語。は。捕。鯊。電  
 子。安。危。と。決。め。ぬ。り。憑。り。ぬ。執。持。頼。朝。の。物。体。る。し。と。各。言。を。述  
 利害。を。鏡。面。を。犯。懐。と。配。頼。怒。れ。る。事。と。あり。立。そ。の。其。一。は。傳。事。と。れ。あ。ん  
 野。心。の。鏡。者。の。舌。小。苦。し。ぬ。時。夷。の。皮。め。て。盛。る。る。と。か。極。く。速。く。と  
 企。幕。下。小。對。し。弓。と。響。し。要。せ。當。麻。太郎。を。召。せ。と。仰。せ。て。れ。し。よ。の。せ  
 の。よ。その。使。走。へ。武。弘。の。宿。所。よ。り。昨。夕。竊。み。出。る。が。何。れ。へ。た。の  
 大。臣。の。妻。子。も。あ。ん。と。返。命。と。ま。う。せ。る。危。於。の。人。は。う。ち。と。れ。が。た。を



予が推量より一点違ひ無當麻太郎の昨夜より執持の算ありき。この好意は  
 するたのり人君命（命）と云はれしに賀の候（賀）と云はれしにゆくと云はれしに何人疎略と云はれし  
 といふ。俱（俱）この准協とせしと只言いそがしめしやわん。江尾人廣通と云はれしに天大属重能の  
 言の練めが死をえんといふ共々嘆息し。梓治部丞と橋太左衛門八主の後方小  
 追携り。多の練人と掖とむは袂を弗と挿掛ふ凡の柳の画障子と推用て後堂に  
 へり受べ又せんまぶるるりけり。當下四個の老臣亦ハ席成のえ圍坐し、額と  
 合し商談。廣通重能ハ主君小俱し、當中へまゐりし橋太左衛門治部丞ハ  
 ぢぢ河館小居籠りし。夫人孺君と守護せんとして内外の用意總て由おのせざる  
 けり。からしは廣通のいふにふしやありけん。むより宿所小退死す。その  
 才三二廣光と招たせ蒲敷殿頃ハ當中へ糸子多々緯の越主君の正直臣  
 なるが練言おちちち告と。さていふ中。前車の覆の致しんく。警言と云はれし。後車

いりてう全うはれ判官殿の滅亡と俗ハ提原景時が練言せしと云はれしと彼  
 人のいふあるべし。此のう憎き執持の枝と伐翼と對外戚の威勢かと權小  
 せんとして功臣のういづがさるし。御連枝さふかひの如く。寛枉と云はせしめ  
 是非もあら世の形勢ハ幕下ハ天の許甘名將をうれともいふのふかひと云は  
 つくせぬのぬハ千慮の一失今さふふち歎くゆもあまりわや。痛くうらみ吾君ハ  
 その性直くかりや。お人の行智を測めり。と云はれし。汝出さるる。以てせしめ  
 日ちのあじ。と今てやあひめめ。君辱れぬか。死をえん固く臣なる道  
 己れの重能り共の河館や。おもひ俱し。先途をえん。さるる。あひの  
 是と云はれし。心討し。夫人孺君と捕まへ。治部丞  
 武略勇敢世ふ。亦ハ忠義の老當あま。河館容こし。遠く  
 討し。引受く。雲時の防光戦ふ。この寡とりく。衆は敵の比。主役有

命と預さる。日月亦芳しく功に。夫は夫人橋太の前。第一の切臣。妻  
 連藤九郎成盛長ぬ。の息女にて。やうせむ。村中の軍兵連。入ると。情さのく  
 さべ。くさ。只むり。と。死に。孺君百惣丸の。こへ。し。今茲九才。よ。た。め。せ。ひ。て。い。ふ  
 怜悧。く。と。や。ゆ。の。生。拘。ら。と。多。ひ。る。が。おん。命。危。り。な。ん。汝。連。天。婦。ハ。二。の。黄  
 昏。小。孺。君。の。おん。俱。り。く。竊。下。野。へ。走。ま。し。足。利。なる。堂。校。の。三。頭。翁。長。老。々。  
 外。伯。父。ゆ。て。と。の。せ。へ。懸。せ。ま。る。は。役。宜。な。ら。ん。今。才。と。あ。ま。の。や。り。く。小。吾。君。逆。心  
 や。う。あ。さ。い。び。と。暮。下。み。づ。う。う。時。を。せ。ら。り。薄。敷。の。郎。君。と。世。ふ。志。く。ら。も。も  
 その。度。に。さ。せ。る。外。口。の。う。う。ん。軟。志。う。う。が。志。が。指。る。る。べ。く。と。勉。め。と。説。示  
 ま。す。准。信。の。沙。金。五。百。兩。と。孺。君。よ。た。て。ま。る。と。い。ひ。の。は。し。り。お。さ。う。お。げ。が。廣  
 光。さ。う。ち。あ。く。と。と。説。と。は。言。う。け。ぬ。り。の。ひ。ひ。ぬ。志。う。あ。ま。と。家。兄。ハ。才。器。人。と。志。る。  
 機。小。隙。を。変。は。有。ぞ。謀。い。と。ま。ら。う。と。某。い。う。て。う。及。べ。れ。願。の。家。兄。孺。君。の。後。見。と

志のひ孫某ハ大敵のおん俱み。了を。ま。う。め。と。ハ。廣。通。改。成。掉。り。こ。の。期。お。及。び。て  
 私。の。越。意。を。述。る。ハ。不。忠。な。り。程。安。村。旧。が。故。事。と。志。ら。ば。死。ハ。易。く。一。て。生。ハ  
 難。一。寔。お。ゆ。く。も。と。ま。る。も。忠。義。は。ゆ。ら。か。ら。ぬ。何。の。推。辞。と。あ。ら。ん。と。志。さ  
 苟。も。老。臣。たり。主。君。の。先。途。は。後。ん。汝。ハ。又。家。嫡。は。あ。ら。ず。郎。君。の。お。ん。る。速。虎。口。を  
 脱。ま。よ。官。途。ハ。兄。才。也。又。お。の。く。職。分。あり。兄。ハ。才。小。孺。子。が。た。く。才。ハ。兄。才。代。り。は。じ  
 と。く。と。い。そ。か。せ。ハ。廣。光。道。理。ハ。通。ら。ま。と。く。お。の。ぎ。涙。さ。う。と。ま。と。く。と。お。お。の。た。く。そ。て  
 件。の。金。を。受。取。る。程。を。あ。ま。守。中。絶。於。お。さ。せ。ぬ。と。私。率。們。が。罵。れ。の。後。は。は  
 け。ら。と。廣。通。ハ。遠。く。衣。裳。改。懸。へ。馬。ハ。閃。り。と。う。ち。跨。ぎ。後。ハ。い。の。ど。も。十。餘。人  
 列。隊。奈。し。く。去。去。たり。是。今。生。の。別。と。う。と。目。送。る。才。ハ。力。む。と。の。秋。の。日。か。ま。さ。ば  
 短。く。と。入。相。の。障。の。声。緒。行。を。常。と。告。ぐ。ら。庭。は。あ。け。た。と。と。こ。り。一。虫。は  
 ろ。う。と。く。哀。な。り。さ。て。も。孫。人。廣。通。ハ。去。ま。年。の。夏。の。比。最。愛。の。妻。力。お。う。り。て

その後今小後妻と娶ひて兄弟才莫逆なりしを廣光と同居させ亡母の姪なり  
 ける。後良井といふ女の子ありて。廣光小妻の家の家事をも大く任せしとせざる  
 程に廣光の兄が忠義を他小せしと必し女房後良井小縁由を説き給へり。  
 夫婦竊小啓行の準備隙ありて。曠黒やがて君所へ参りて。さあけぬ侍小蒲  
 殿の出仕と祝しむる。さきかこの後良井八女の立里たるより比より。幡太の方よ  
 給事し。奥さのう人大くさかたさびさるるを。めわの。小廣光が妻小  
 ろるまでも。さあけとさくくさるる。今宵も誰う怪むべし。後良井八女とて。て  
 你母冊の女房小を説欺り。白鳩丸とそとの。竊知し。なまは。廣光と後園  
 なる。樹下蔭小待つけ。おん痛く。さあけ。声立。あつた。人もや。さあけ。さあけ。さ  
 多と念。後より抱きとり。左より口と推餅め。右のさ。小扱。後が枝を  
 けりて。筑石垣。築乘。駒。閃。と。花。後良井八下括の。初引。解。松よ

投げけ辛。外。面。へ。り。立。り。走。る。良。人。の。後。小。跟。ひ。て。小。石。小。跪。り。背。圍。小。其  
 乳とも。さあけ。と。喘。み。十。町。あ。ま。り。落。り。け。り。て。わ。く。く。三。三。廣。光。八。人。家。遠。離。る  
 磯道。稲。塚。の。藁。うち。敷。く。白。鳩。丸。と。居。を。り。夫。婦。遠。く。額。或。著。何。と。も。や  
 上。さ。さ。さ。竊。知。し。を。り。さ。さ。さ。驚。せ。ひ。け。ん。憎。し。と。必。召。さ。ん。か。ま。さ。く  
 異。や。る。お。ん。俱。せ。し。その。あ。の。箇。様。と。と。お。ん。又。君。の。大。厄。難。當。家。の。艱。絆。逼。迫  
 十。九。脱。ま。さ。さ。顔。末。と。告。ま。あ。せ。廣。通。が。ひ。つ。つ。下。毛。野。へ。と。て。俱。  
 なる。縁。由。と。さ。さ。さ。ひ。ま。を。白。鳩。つ。て。う。ち。あ。さ。く。又。う。も。い。と。危。く。母。う。も。い。と  
 危。く。異。や。る。と。の。や。り。さ。さ。九。の。ま。ま。と。何。あ。う。せ。ん。と。く。お。ん。か。れ。廣。光。と。い。ひ  
 け。り。さ。さ。さ。立。る。あ。ん。三。三。後。良。井。左。右。と。り。か。さ。推。ま。え。背。と。拵。絨。袴。袴。の  
 ち。せ。い。ん。の。ま。ま。か。ぬ。孝。心。い。と。う。さ。り。く。お。む。ひ。め。ら。ま。さ。り。と。て。い。わ。く。三。三。三。三。  
 定。ら。な。ら。ず。む。し。は。大。刀。袴。由。又。奥。う。も。恙。わ。く。と。り。さ。さ。さ。と。慰。め。あ。う。け。夫。婦。が

負とどきぬわうさるうち膽りまろぬぬといふのうまへうも母うの志  
 ろくまうまきふ丸も又何如へ申くべしそ成るるくふおと走らば廣光  
 僻りたつらん。わけても汝達咎なりやと年才ゆかやせて賢くも結り多へ  
 廣光へあつまで小膝と丁と鼓脚旋室小理りえ。あつたあれとも禍ま  
 こきと未獲は避ざれば後悔其如くあらざれば異ぬく帰館あつた祈る  
 かひある幸へ廣光が庶勿心の罪何とも仰付られよ。光期のうふいとや  
 上まふ清良井の坐は涙さうぞき。今宵のる紙幡太の方又告うらん  
 とらふひ侍りがさでる名残と惜ませぬらん。おん歎死の程痛く。い  
 ぬらひあまふひめ成とよらるる後成鬼中しく。正なる死形も忠  
 義のるら知られさふ。そのは竊とり。走らまけり。とあめあつ吾侪  
 ひとり成憎ても憎倦ほぞおぼまらぬ。あつたせぬと當とよせく其

方と伏拜め。廣光声と激しく。よりわ死周瘰いふかひあさんや。さうら君  
 所へる海辺なり。夜ともふらぎ支らん。と叱懲ら。白鳩丸とぬくび賺  
 まららん。楚と脊肩ひく立あがれハ俄頃又あやう閑の声矢叫の音  
 戦馬の蹄。ふとる如く。置置塵なり。廣光信とええり。地方も正しく  
 濱の宿原来を討ひの軍兵推しを。とほ疑ひる。かき不敵由安  
 穩るは。果敢なく。囚と多ひ。放ら兄るが。義人との先見誠心一毫  
 違ひ。形なれ世の。ささるひ。月日の。成照さ。成や。と歎け。共。一。涙  
 良井の。ある。は。と。小伸あがり。年来。所。産と。蒙り。し。奥。う。い。う。小。なり  
 多らん。あつ。時。ゆ。せ。あ。と。彼。溝。の。梁。と。も。才。を。あ。り。と。と。あ。お。か。ま。と。と。と  
 りの。成。外。は。え。る。め。の。悲。し。死。と。唧。つ。の。袖。の。雨。る。ら。と。と。猛。火。忽。地。天。不。徳。鬼  
 白。も。こ。ら。ぬ。野。千。玉。の。鳥。夜。と。照。ら。く。と。と。明。く。煙。は。哽。び。力。と。焦。及。婦

幼の叫ぶ声阿鼻焦熱は彷彿たり。廣光まほしく嗟嘆しく。たゞ歌既ま  
 乱入り火と放せしと。是中は比喩なり。わが走り。あまなる軍志で  
 討死せん。そまもろのひ弓並前の道は絆さきく。はとところめく夜  
 めう。捕らるるが悔ともかひる。是まどくたまり。と思ひ捨て。ゆる  
 すと。白鳩丸へ廣光が肩うち鼓死屋形のうち。不異たのる人声。猛火



頻るふ因死のむ。或合戦ありと汝達ハ入つ。知つ。あつ。む。や。か。せ。と。焦  
 燥のふ自然と。ゆる。智度。勇敢。現。滿。檀。の。二。葉。より。度。木。小。や。と。苦。地。活  
 如。は。病。人。の。物。具。剥。んと。野。伏。三人。拘。立。乃。蔭。より。頭。出。脱。し。か。せ。と。  
 廣光が。左右の。腋より。楚と。組。む。さ。ら。る。る。と。り。と。り。釋。死。足。死。死。と。く  
 礮と。蹴。る。蹴。ら。ま。く。奔。く。輾。轉。起。んと。ま。つ。死。起。し。由。立。死。死。身。な。か。の。つ。矢

駭く侍の二人成砍伏す。残る一人ありまふふ刃とうち振走くよりののし  
 や。と廣光へ左の小孺君拾揚る。右の血刀閃く西三合丁ことさああ  
 ころ六刀風ふ野伏が頸砍桐一葉地上小礮と落ちあましく骸の後小倒す  
 るり危かりしと淺良井ハ懐紙とさうさう鮮血を拭へばそがうふ刃を  
 鞘ふおさるくも。奈を苦く死せ間と。老のたとされど月夜より雲ひ  
 せちの死猛火の上り小梢の鳥立さると死野寺遙く音ひたつる。鐘ゆめ  
 るるの嚮道裾こけぬとと夕雲の暮の名ふ下毛野足利投し落る  
 ゆく時不建久四の年秋八月下旬なり。傳きふ阿三郎が十才のときな  
 るく。渠へ満福の山寺ゆくと。続書子習せし比あるべし。

朝夷巡島記全傳卷之二 終



